

狭心症や心筋(ミオセン)を治療する心臓バイパス手術について、日本経済新聞社が全国二百床以上の病院を対象に、二〇〇二年の症例数(七十五歳未満)、入院中の死亡率、平均入院日数を尋ね、それぞれ上位からA、B、Cの三段階で評価したところ、名古屋第一赤十字病院など七病院が三項目ともA評価となった。多くの病院に患者が分散し、上位病院でも欧米に比べて症例数が少ない医療構造も浮かび上がった。

主要病院調査「手術検証編」

有効回答の中で症例数が最も多いのは、近畿大奈良病院の二百二十一例。術後の患者が入院中に亡くなった「在院死亡」率は、症例が百例以上では名古屋第一赤十字病院が唯一ゼロ。術後の入院日数の最長は滋賀医科大学の十二・八日だった。上位病院は北海道、東北、関東、東海、近畿、中国、九州の各地方に分散。有効回答中、症例数が百以上の病院は十一、五十例以上を含めても五十二病院にとどまり、平均でも一施設あたり年間数百例を手がける欧米との違いが目立った。一般に症例数が多いほど

患者分散、少ない症例

と医師らの技量が上がるとされるが、今回は症例数と死亡率の相関は確認できなかった。回答病院のうち、症例数が二百四十四とトップだった新東京病院(千葉県松戸市)は、在院死亡率が〇・九%と低かったが、入院日数の記載がなく有効回答にならなかった。このほか、東京女子医科大学(東京都新宿区)、静岡市立静岡病院(静岡市)も百例を超えたが、同様に有効回答には至らなかった。

調査は全国千九百八十八病院(二百床以上)を対象に昨年十一月から十二月にかけて実施。心臓(冠動脈)バイパス手術について、二〇〇二年の症例数、術後の患者が入院中に亡くなった「在院死亡」率、平均入院日数を尋ねた。症例数が三十例未満だったり、三項目のうち一つでも回答がなかった病院は対象外とした。さらに、多様なリスクを抱えた患者が増えると思われる

調査は全国千九百八十八病院(二百床以上)を対象に昨年十一月から十二月にかけて実施。心臓(冠動脈)バイパス手術について、二〇〇二年の症例数、術後の患者が入院中に亡くなった「在院死亡」率、平均入院日数を尋ねた。症例数が三十例未満だったり、三項目のうち一つでも回答がなかった病院は対象外とした。さらに、多様なリスクを抱えた患者が増えると思われる

調査は全国千九百八十八病院(二百床以上)を対象に昨年十一月から十二月にかけて実施。心臓(冠動脈)バイパス手術について、二〇〇二年の症例数、術後の患者が入院中に亡くなった「在院死亡」率、平均入院日数を尋ねた。症例数が三十例未満だったり、三項目のうち一つでも回答がなかった病院は対象外とした。さらに、多様なリスクを抱えた患者が増えると思われる

調査は全国千九百八十八病院(二百床以上)を対象に昨年十一月から十二月にかけて実施。心臓(冠動脈)バイパス手術について、二〇〇二年の症例数、術後の患者が入院中に亡くなった「在院死亡」率、平均入院日数を尋ねた。症例数が三十例未満だったり、三項目のうち一つでも回答がなかった病院は対象外とした。さらに、多様なリスクを抱えた患者が増えると思われる

調査は全国千九百八十八病院(二百床以上)を対象に昨年十一月から十二月にかけて実施。心臓(冠動脈)バイパス手術について、二〇〇二年の症例数、術後の患者が入院中に亡くなった「在院死亡」率、平均入院日数を尋ねた。症例数が三十例未満だったり、三項目のうち一つでも回答がなかった病院は対象外とした。さらに、多様なリスクを抱えた患者が増えると思われる

調査は全国千九百八十八病院(二百床以上)を対象に昨年十一月から十二月にかけて実施。心臓(冠動脈)バイパス手術について、二〇〇二年の症例数、術後の患者が入院中に亡くなった「在院死亡」率、平均入院日数を尋ねた。症例数が三十例未満だったり、三項目のうち一つでも回答がなかった病院は対象外とした。さらに、多様なリスクを抱えた患者が増えると思われる

心臓バイパス手術



年間100件を超える心臓バイパス手術を行う名古屋第一赤十字病院(名古屋市中区)

全3項目A評価の病院

症例数 死亡率 入院日数

病院名(所在地)	症例数	死亡率	入院日数
AAAの7病院			
名古屋第一赤十字病院(名古屋市)	143	0	15.9
名古屋第二赤十字病院(名古屋市)	136	1.4	18.0
滋賀医科大学(大津市)	93	0	12.8
三井記念病院(東京都千代田区)	86	1.2	17.6
東田総合病院(千葉県船橋市)	78	0	14.8
福岡大病院(福岡市)	77	1.3	18.3
慶応大病院(東京都新宿区)	70	0	18.4
AABの10病院			
近畿大奈良病院(奈良県生駒市)	221	0.9	22.0
国立循環器病センター(大阪府吹田市)	144	1.4	22.4
岩手医科大学(盛岡市)	128	1.6	24.0
自衛隊中央病院(岡山県倉敷市)	126	1.6	24.0
手稲区立病院(札幌市)	104	0.9	19.3
国立循環器病センター(兵庫県姫路市)	90	1.1	21.3
東京医科大学(東京都文京区)	85	0	19.0
大村市立病院(長崎県大村市)	85	1.2	23.4
済生会熊本病院(熊本市)	71	0	19.7
国立循環器病センター(北海道旭川市)	70	1.4	22.5

須磨久壽・葉山ハートセンター院長の話。症例数はきちんとした治療をしないと増えていかないので、一つの目安になる。ただ、国際水準に照らせば日本の病院は症例数が少ない。病院あたりの年間平均症例数は、米国が五百〜六百例、欧州でも三百〜四百例あるが、日本は三十例程度。心臓手術を行

手術リスクの中身も考慮

う病院が多すぎて症例数の高い症例の割合も分散しているため、考慮する必要がある。欧米では症例数が多い病院でできる手術なので、入る論文がいくつもある。院日数の長短は病院のトップの考え次第だ。課題はあるが、病院の治療成績が評価され、一死亡率については、同様に公表されるといふ方針だ。人工透析中の患者が集中し、病院あたり年再手術の患者、心臓弁の閉塞例を超えるように手術を併せて行う必要がなければ、より的確な比較が可能になるだろう。

心臓血管外科副部長は「検査の大半は空振りだが、有効なケースがある限り必要」と話す。例えば手術中に心臓と肺をつなぐ大動脈にコレステロールの塊がないかを調べる超音波検査。血管の壁からはがれて脳にそくを起すのを防ぐのが目的で、四年前からすべての手術で実施。年間数件あった手術中の脳こうそくが、その後一件しか起きていない。死亡率高い「搬入から二十四時間以内」などの緊急手術は全体の約一五%。緊急も含めた死亡率はおおむね二%以下だが、毎年ゼロというわけではなく、下げるための手間は惜しまない(同)近畿大奈良病院は症例

静脈や、胸や背の動脈などが使われ、症状に応じて同時に三、四本の血管を移植するケースもある。最近では、血管内に挿入したカテーテルと呼ばれる細い管の先につけた風船を膨らませ、詰まった血管を押し広げる内科的治療が急速に進歩。循環器内科でカテーテル治療を試みたうえで、心臓バイパス手術が必要か判断するのが一般的だ。船を膨らませ、詰まった血管を押し広げる内科的治療が急速に進歩。循環器内科でカテーテル治療を試みたうえで、心臓バイパス手術が必要か判断するのが一般的だ。

医療

名古屋第一赤十字病院 症例200超え首位

心臓バイパス手術の実績が最も高かった病院に名古屋第一赤十字病院(03-5255-5420)が電子メール(Lyons@ncc.nyu.ac.jp)でお知らせしたい。お住まいの都道府県名、年齢、職業、性別をお書き添えてください。

心臓血管外科副部長は「検査の大半は空振りだが、有効なケースがある限り必要」と話す。例えば手術中に心臓と肺をつなぐ大動脈にコレステロールの塊がないかを調べる超音波検査。血管の壁からはがれて脳にそくを起すのを防ぐのが目的で、四年前からすべての手術で実施。年間数件あった手術中の脳こうそくが、その後一件しか起きていない。死亡率高い「搬入から二十四時間以内」などの緊急手術は全体の約一五%。緊急も含めた死亡率はおおむね二%以下だが、毎年ゼロというわけではなく、下げるための手間は惜しまない(同)近畿大奈良病院は症例

心臓血管外科副部長は「検査の大半は空振りだが、有効なケースがある限り必要」と話す。例えば手術中に心臓と肺をつなぐ大動脈にコレステロールの塊がないかを調べる超音波検査。血管の壁からはがれて脳にそくを起すのを防ぐのが目的で、四年前からすべての手術で実施。年間数件あった手術中の脳こうそくが、その後一件しか起きていない。死亡率高い「搬入から二十四時間以内」などの緊急手術は全体の約一五%。緊急も含めた死亡率はおおむね二%以下だが、毎年ゼロというわけではなく、下げるための手間は惜しまない(同)近畿大奈良病院は症例

心臓血管外科副部長は「検査の大半は空振りだが、有効なケースがある限り必要」と話す。例えば手術中に心臓と肺をつなぐ大動脈にコレステロールの塊がないかを調べる超音波検査。血管の壁からはがれて脳にそくを起すのを防ぐのが目的で、四年前からすべての手術で実施。年間数件あった手術中の脳こうそくが、その後一件しか起きていない。死亡率高い「搬入から二十四時間以内」などの緊急手術は全体の約一五%。緊急も含めた死亡率はおおむね二%以下だが、毎年ゼロというわけではなく、下げるための手間は惜しまない(同)近畿大奈良病院は症例

調査の概要

調査は全国千九百八十八病院(二百床以上)を対象に昨年十一月から十二月にかけて実施。心臓(冠動脈)バイパス手術について、二〇〇二年の症例数、術後の患者が入院中に亡くなった「在院死亡」率、平均入院日数を尋ねた。症例数が三十例未満だったり、三項目のうち一つでも回答がなかった病院は対象外とした。さらに、多様なリスクを抱えた患者が増えると思われる

調査は全国千九百八十八病院(二百床以上)を対象に昨年十一月から十二月にかけて実施。心臓(冠動脈)バイパス手術について、二〇〇二年の症例数、術後の患者が入院中に亡くなった「在院死亡」率、平均入院日数を尋ねた。症例数が三十例未満だったり、三項目のうち一つでも回答がなかった病院は対象外とした。さらに、多様なリスクを抱えた患者が増えると思われる

調査は全国千九百八十八病院(二百床以上)を対象に昨年十一月から十二月にかけて実施。心臓(冠動脈)バイパス手術について、二〇〇二年の症例数、術後の患者が入院中に亡くなった「在院死亡」率、平均入院日数を尋ねた。症例数が三十例未満だったり、三項目のうち一つでも回答がなかった病院は対象外とした。さらに、多様なリスクを抱えた患者が増えると思われる

調査は全国千九百八十八病院(二百床以上)を対象に昨年十一月から十二月にかけて実施。心臓(冠動脈)バイパス手術について、二〇〇二年の症例数、術後の患者が入院中に亡くなった「在院死亡」率、平均入院日数を尋ねた。症例数が三十例未満だったり、三項目のうち一つでも回答がなかった病院は対象外とした。さらに、多様なリスクを抱えた患者が増えると思われる

調査は全国千九百八十八病院(二百床以上)を対象に昨年十一月から十二月にかけて実施。心臓(冠動脈)バイパス手術について、二〇〇二年の症例数、術後の患者が入院中に亡くなった「在院死亡」率、平均入院日数を尋ねた。症例数が三十例未満だったり、三項目のうち一つでも回答がなかった病院は対象外とした。さらに、多様なリスクを抱えた患者が増えると思われる

調査は全国千九百八十八病院(二百床以上)を対象に昨年十一月から十二月にかけて実施。心臓(冠動脈)バイパス手術について、二〇〇二年の症例数、術後の患者が入院中に亡くなった「在院死亡」率、平均入院日数を尋ねた。症例数が三十例未満だったり、三項目のうち一つでも回答がなかった病院は対象外とした。さらに、多様なリスクを抱えた患者が増えると思われる

冠動脈が詰まった心臓とバイパス術



心臓の筋肉に酸素や栄養を送る血管(冠動脈)が動脈硬化などで詰まる狭心症や心筋(ミオセン)が心臓や心筋(ミオセン)を採取して詰まった部分を迂回(うかい)する形でつなぎ、血流を回復させる心臓血管外科の手術。国内では年間約二万件行われている。冠動脈は左右二本あり左はさらに大きく二つに分かれる。バイパス用の血管には太ももの内側の

心臓の筋肉に酸素や栄養を送る血管(冠動脈)が動脈硬化などで詰まる狭心症や心筋(ミオセン)が心臓や心筋(ミオセン)を採取して詰まった部分を迂回(うかい)する形でつなぎ、血流を回復させる心臓血管外科の手術。国内では年間約二万件行われている。冠動脈は左右二本あり左はさらに大きく二つに分かれる。バイパス用の血管には太ももの内側の

心臓の筋肉に酸素や栄養を送る血管(冠動脈)が動脈硬化などで詰まる狭心症や心筋(ミオセン)が心臓や心筋(ミオセン)を採取して詰まった部分を迂回(うかい)する形でつなぎ、血流を回復させる心臓血管外科の手術。国内では年間約二万件行われている。冠動脈は左右二本あり左はさらに大きく二つに分かれる。バイパス用の血管には太ももの内側の

心臓の筋肉に酸素や栄養を送る血管(冠動脈)が動脈硬化などで詰まる狭心症や心筋(ミオセン)が心臓や心筋(ミオセン)を採取して詰まった部分を迂回(うかい)する形でつなぎ、血流を回復させる心臓血管外科の手術。国内では年間約二万件行われている。冠動脈は左右二本あり左はさらに大きく二つに分かれる。バイパス用の血管には太ももの内側の